

研究ノート

# ミュージカル創作活動と生演奏による上演の取組み ～ 10年間の取組みを振り返って～

野口美乃里・米倉 慶子

(西九州大学短期大学部 幼児保育学科)

(平成 31 年 1 月 9 日受理)

## **An Attempt To Create a Musical and Organize a Live Performance — Looking Back On The Effort Of 10 Years —**

Minori NOGUCHI, Keiko YONEKURA

(*Department of Early Childhood Education and Care Nishikyusyu University, Junior College*)

(Accepted January 9, 2019)

### **Abstract**

This article aims to report how our students have attempted to create a musical and organize a live performance over the past 10 years as the theme of the graduation research at the expression and music course of the early childhood education department at Nishikyushu University Junior College. The report will be presented during our annual event of demonstrating the result of our efforts.

The article looks into the process of creating the musical piece as well as stage effects of the live performance and educational effects based on questionnaire sheets collected from the audience and excerpts of the graduation research submitted by students.

Key words: musical ミュージカル  
live performance 生演奏  
training school for child-care worker 保育者養成

## 1. はじめに

本稿のテーマである「ミュージカル」は、本学科が毎年12月に開催する一大イベントである「幼児保育学科実技発表会」の演目の一つである。この実技発表会は、本学の創始者である永原マツヨが、音楽教育を重視し、昭和48年に「佐賀短期大学第1回音楽会」を始めてから、45年間続く学校行事の一つでもある。この間、名称変更や演目内容の改善を積み重ねてきた。この詳細については本学紀要（第38号）に掲載している。「幼児保育学科実技発表会」としての名称で開催していたこの発表会は平成25年度より西九州大学、西九州大学短期大学部、附属三光幼稚園の共催事業として「表現フェスタ」に名称変更し、幼児保育学科実技発表会は「表現フェスタ」内の一部分という位置付けとはなったが、現在までに45回を重ねている。

保育者養成を行う短期大学における類似した取り組みとしては「オペレッタ」の実践が多く、使用される音楽は童謡や幼児のための歌の歌詞をストーリーに合わせ「替え歌」にしたものが多く見受けられる。本学科も同様に「オペレッタ」の演目を発表していた時期があるが、10年前の「より音楽を重要視した、器楽合奏の生演奏による発表」への取り組み移行により、発表名を「ミュージカル」と改めた。

本稿は身体表現教員と音楽教員2名で指導に携わり、10年間積み上げた取り組みを振り返るとともに、近年3年間の実技発表会来場者アンケート及び、卒業課題研究抄録から、ミュージカル創作活動と生演奏による上演について、その演出効果や教育的効果について考察するものである。

## 2. 取り組みの背景

「ミュージカル」取り組みの動機は、それまでの実技発表会の演目が、ややマンネリ化していたことが一因として挙げられるが、しかしそれ以上に大きな要因として、平成21年度に西九州大学に「子ども学部」が設置され、本学科音楽教員の子ども学部への移動や長年音楽教育に貢献した教員の退職が重なり「幼児保育学科実技発表会」の改革を検討する必要が出てきたためである。そこで平成20年度実技発表会を機に今後を見据えた本格的な演目の検討を行った。

検討内容としては、担当教員が2名減員となってもなお「幼児保育学科実技発表会」を成功させ、今まで以上の集客数を獲得する、核となる演目の具体的検討であった。その結果、身体表現教員、音楽教員の2名で担当する本格的な「ミュージカル」に取り組むこととした。

平成19年まで20年間に亘って続けてきた「ダンス劇」

（童話を基に場面にあった楽曲と台詞などを予め全て録音し、それに合わせた簡易な演技とダンス進行する）から、台詞や歌はもちろん舞台上で鳴る全ての音を生演奏することにより臨場感溢れるものにし、それに20年間積み上げたダンスの迫力も織り交ぜて、見応えのあるミュージカル創作を目指した。またダンス劇では20分程度であった上演時間を約45分とし、台本作成にも力を入れた。

## 3. 生演奏による上演について

先述したように「ミュージカル」では物語の進行のために使用する音楽、効果音など音の全てを演奏チームが生演奏で担当する。生演奏でのミュージカルは、パフォーマンスとしてもより高度なものとなるが、キャストチーム・演奏チーム双方の学生がお互いの立場を尊重しながら一つの作品を創り上げることにより、コミュニケーション能力の向上や作品づくりに対する責任感が生まれると考えた。またCDなどの音源を使用する場合と比較し臨場感、緊張感が高まる。それにより観客の満足感が上がれば、学生の達成感も向上すると考えた。その他にも生演奏による利点は多く、次のようなものが挙げられる。

- ・ CD音源を使用する場合は、音楽の長さに合わせ台詞や動きを作ることになるが、生演奏の場合は音楽の寸法を小節単位で調節できるため、演技を優先でき、演出の変更にも本番直前まで対応できる。
- ・ 数多くの楽譜から、その場面に合致したものを選択できる。
- ・ ダンスや歌のテンポを変えることができ、演出に幅が生まれる。
- ・ 演技や台詞合わせたBGMを付けることでキャストが感情移入しやすい。
- ・ 仲間が生演奏してくれることで、キャストが音楽との一体感が持てる。

実際の上演では演奏チームは舞台下手にピアノ、エレクトーン、下手花道にスネアドラム、サスペンデッドシンバル、バスドラム、グロッケン、シロフォン、ビブラフォン、マリンバ、バスドラム、コンガ、ボンゴ、その他小物楽器（ウインドチャイム、トーンチャイム、ミュージックベル、鈴、タンバリン、トライアングル、モンキータンバリン、カスタネット等）を配置する。担当学生の人数は年度によって変化し、1,2年生混合で14名～18名である。

作品中に使用する音楽の選曲は、キャストチームのリーダー2名と演奏チームのリーダー2名と教員の5名

で行う。「こどもミュージカル」(ドレミ楽譜出版社)をベースとし、その他にもクラシックのピアノ曲やエレクトーンの楽譜から、台本に沿って歌や場面ごとのBGM、ダンス曲、効果音などを選曲する。基となる楽譜は単一楽器用であるため、合奏用に編曲が必要となる。場面の雰囲気に沿うようダイナミックな合奏に仕上げるもの、小編成とするもの、またピアノのみで演奏するものもある。

平成20年(第36回)～平成29年(第45回)の演目を表1に示す。

表1. 平成20年～平成29年のミュージカル演目

平成20年度 (第36回)	「ジャックと豆の木」
平成21年度 (第37回)	「オズの魔法使い」
平成22年度 (第38回)	「ふしぎの国のアリス」
平成23年度 (第39回)	「くるみ割り人形」
平成24年度 (第40回)	「ピーターパン」
平成25年度 (第41回)	「アラジン」
平成26年度 (第42回)	「雪の女王」
平成27年度 (第43回)	「いばら姫」
平成28年度 (第44回)	「美女と野獣」
平成29年度 (第45回)	「ヘンゼルとグレーテル」

平成27年(第43回)～平成29年(第45回)の使用曲目を表2に示す。

表2. 平成27年度～平成29年度の使用曲

平成27年度 (第43回)	「いばら姫」
こどもミュージカル「いばら姫」全音楽譜出版社より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙女のおくりもの</li> <li>・ いじわる仙女の登場</li> <li>・ 若い仙女の歌</li> <li>・ 王の命令</li> <li>・ 15年たって</li> <li>・ まわれ糸車</li> <li>・ フィナーレ</li> </ul>
ケーラー「こどものケーラー」音楽之友社より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の帰り</li> </ul>
平吉毅州「虹のリズム」カワイ出版より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チューリップのラインダンス</li> </ul>
ギロック「こどものためのアルバム」全音楽譜出版社より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古い農民歌</li> <li>・ 魔法の木</li> </ul>
STAGEA・EL「ドラマティッククラシック」ヤマハミュージックメディアより	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レクイエム 怒りの日 (ヴェルディ)</li> </ul>
平成28年度 (第44回)	「美女と野獣」
こどもミュージカル「美女と野獣」全音楽譜出版社より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ああ、いまごろは</li> <li>・ 野獣登場</li> <li>・ 夜から朝へ</li> <li>・ いつか心も</li> <li>・ ある日娘は</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰らなくては</li> <li>・ 王子と娘はむすばれて</li> </ul>	
ギロック「こどものためのアルバム」全音楽譜出版社より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森の妖精</li> <li>・ カプリチエット</li> <li>・ フランス人形</li> <li>・ コラールプレリュード</li> <li>・ タランテラ</li> </ul>	
グルリット「こどもの音楽会」全音楽譜出版社より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元気で出発</li> </ul>	
平吉毅州「虹のリズム」カワイ出版より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 踏まれた猫の逆襲</li> </ul>	
STAGEA・EL「ディズニープリンセス」ヤマハミュージックメディアより	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビビディ・バビディ・ブー</li> </ul>	
劇団四季「美女と野獣」ヤマハより	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暴徒の歌</li> <li>・ 美女と野獣</li> </ul>	
ギロック「ピアノピースコレクション2」全音楽譜出版社より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終奏曲 (想い出)</li> </ul>	
平成29年度 (第45回)	「ヘンゼルとグレーテル」
こどもミュージカル「ヘンゼルとグレーテル」全音楽譜出版社より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰りの道がわからない</li> <li>・ どこだどこだ</li> <li>・ 休んじゃならぬ</li> <li>・ こんなかなしみ</li> <li>・ パン焼き窯をのぞいたら</li> <li>・ まほうがとけた</li> <li>・ なんといい日だろう</li> <li>・ フィナーレ さあ かえろう</li> </ul>	
ピアノ絵本館 フンパーディング「ヘンゼルとグレーテル」全音楽譜出版社より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小人が森に立っている</li> <li>・ 踊りましようよ</li> <li>・ 終曲</li> </ul>	
クラック「子どもの生活」全音楽譜出版社より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 煙突の中のおばけ</li> </ul>	
グルリット「こどものためのアルバム」全音楽譜出版社より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オルゴール</li> </ul>	
平吉毅州「虹のリズム」カワイ出版より	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想い出</li> </ul>	
STAGEA・EL「ポップクラシック」ヤマハミュージックメディアより	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天国と地獄</li> <li>・ ハンガリー舞曲第5番</li> </ul>	
STAGEA・EL「ディズニープリンセス」ヤマハミュージックメディアより	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつか王子様が</li> </ul>	

ミュージカルとしての第1作「ジャックと豆の木」では全12曲であった使用曲が、現在では18曲程度となっているが、ダンスの伴奏音楽として全員合奏により演奏した曲を、同じシーンの台詞のBGMとして編成を変えて演奏するなど、1つの作品中に複数回登場する曲もあるため、実際には20曲以上を演奏することになる。ダンス曲のように音楽がメインとなる場面や、台詞の下に

静かに流れる BGM、または舞台転換のための暗転中に舞台上の雰囲気音楽を繋いでいくなどの工夫により使用曲が増加し、45 分間の上演中、次々に音楽が現れ、観客の舞台への集中が途切れないよう配慮している。

#### 4. 取組みの流れ

ミュージカルは2年生前期「卒業課題研究Ⅰ」後期「卒業課題研究Ⅱ」の取組みであるが、1年次の後期の「総合表現」の授業から2年生と共に活動が始まる。

1年次の7月に実施される2年生の卒業研究中間発表会を見学し、自身を取り組む演目を選ぶ。ここで「ミュージカル」または「ミュージカル器楽」を選択した学生が「キャストチーム」「演奏チーム」としてミュージカル創作に取組む。1年次はメインキャストを担当することはなく、あくまで補助的な立場での関りではあるが、どちらのチームも実技発表会では2年生と共に舞台に出演する。以下は時系列でキャストチーム、演奏チームに分け、取組みの流れを記す。

##### (1) 発表会終了後～4月

###### ① キャストチーム

実技発表会後の1月以降、2年生から1年生へ係ごとの引継ぎが行われる。係には、リーダー、サブリーダー、台本、衣装、メイク、振付、大道具・小道具、会計、その他があり、2年生が作成した資料を基に活動時期や内容、留意点などが引き継がれる。その後翌年の演目を決定し2月には台本作成が始まる。台本は台本係2名とリーダー2名の4名と指導担当教員が5～6回の「台本ミーティング」を通して作成する。台本作成の流れを以下に記す。

第1回：台本の資料となる本、絵本、映像資料などを持ち寄り、あらすじについて検討する。資料により物語の流れや展開が異なるものも多く、幼児保育学科の卒業課題研究のミュージカルとして、どのような展開がふさわしいか、暗転のタイミングや舞台転換、舞台セットなどについても考慮しながら登場人物とあらすじを決定し、「起承転結」の4場面を設定する。第2回ミーティングまでの1週間に台本係の1名が「起」の部分の台本をA4用紙に2ページ分程度執筆する。

第2回：台本係Aが執筆した「起」の部分にあたる台本を検討し訂正を加えていく。「起」部分は、物語の設定や登場人物の人となりや台詞で説明する必要があり、この段階で初めて登場人物の性格や人物間の関係性を具体的に考えることになるため、場合によっては第1回に決めたあらすじに変更が生じることもある。翌週までに

台本係Aは「起」部分の訂正を行い、台本係Bが「承」部分を執筆する。

第3回：台本係Aが訂正した部分の確認を行い、台本係Bが執筆した「承」部分を検討し、訂正箇所を挙げていく。翌週までに台本係Bは「承」部分を訂正し、台本係Aが「転」部分を執筆する。

第4回：台本係Bが訂正した「承」部分を確認し、台本係Aが執筆した「転」部分を検討する。「転」部分は文字通り物語にドラマ性を持たせることが重要であり、台詞一つひとつにこだわり検討する必要があるため、ここでもしばしば、台本係が執筆したものから大幅な変更が発生する。翌週までに台本係Aは「転」部分を訂正し、台本係Bは「結」部分を執筆する。

第5回：台本係Aが訂正した「転」部分を確認し、台本係Bが執筆した「結」部分について検討するとともに訂正作業を行い、台本のすべての流れを確認し一応の完成となる。

1回ごとの執筆はA4用紙に2ページ分とし「起承転結」4場面で8ページ分であるが、ここまでの作業の繰り返しにより約10ページ分の台本が出来上がる。しかしこれはあくまでも練習用台本であり、練習を通して台本係が繰り返し訂正を加える。

2年次の4月からは完成した練習用台本を使った練習が始まる。ここでは時期ごとに両チームの活動の流れをまとめ報告する。

##### (2) 4月～6月初旬

###### ① キャストチーム

台本の読み合わせ後、登場人物が比較的多い部分、ページにして2～3ページについて、5～6人のグループで立ち稽古に入る。この時点では舞台上での立ち居振る舞い、セリフの喋り方、台本の読み取り方など何一つ上手くできないが、グループごとの発表とアドバイスを繰り返し、「演じること」について少しずつ理解するようになる。またこの時期にダンスの基礎的な動き、ステップやターンなどの練習も行う。衣装係は衣装デザイン、大道具係は大道具作成の計画を進行する。

###### ② 演奏チーム

演奏チームの活動は主に4月から開始する。10年間の活動で、ミュージカルの楽譜はドレミ楽譜出版社「こどもミュージカル」を主に使用してきた。4月にその年の演目の楽譜全てについて、学生が手分けして譜読みをし、曲の雰囲気や歌について全員で共有する。「フィナーレ」について使用楽器を選択し、実際に演奏しながら合奏用に編曲する。



### (3) 6月中旬～8月初旬

#### ① キャストチーム

7月中旬の中間発表会に向けた準備をする。中間発表会ではそれぞれの演目の進捗を報告し合い、演奏などを発表し合う。先述したが、この中間発表会は1年生の配属調査のための見学の場でもある。

中間発表会でキャストチームは演技、歌（歌唱表現授業で指導）、ダンスの発表をする。

6月中旬に演技の発表メンバーを選出し、残りのメンバーがダンスを発表、歌は全員で発表する。7月中旬に中間発表が終了すると、配役オーディションに向けて準備をし、8月初旬にオーディションを経て実技発表会の配役が決定する。

#### ② 演奏チーム

「フィナーレ」の合奏練習をしつつ、その他1曲について使用楽器の選択、編曲、合奏練習をし、中間発表会で2曲を合奏で演奏する。

### (4) 8月中旬～9月末

#### ① キャストチーム

夏休み期間であるが週に2～3日出校し、午前中は練習、午後は衣装製作に充てるが、この時期に2つの実習が配置されているため、実際には10日程度の活動である。

練習では場面ごとの演技を作る作業と、実技発表会の最後に表現・音楽コースの全員が参加するダンスによるパフォーマンス「グランドフィナーレ」の振付について、振付担当学生が立案したものを他学生に教え、全員が踊れるようにする。

#### ② 演奏チーム

8月初旬にキャストチームのリーダーを含めて、選曲会議を行う。「こどもミュージカル」以外の曲について、台本の流れに沿って、ダンスの伴奏曲、場面のBGM、舞台転換中の曲などを、ピアノ、エレクトーンの作品集などから約12～13曲選出する。合奏として扱う曲や小編成とするもの、ピアノソロとするものなどに分け、合奏にするものから編曲し練習する。

### (5) 10月初旬～10月下旬

#### ① キャストチーム

後期授業が開始されると金曜日4限1年生の「総合表現」、5限の2年生「卒業課題研究Ⅱ」の2コマが該当授業となるが、毎日空きコマや放課後を使い準備を進める。ミュージカル全体45分間の演技の流れが固まるのが10月下旬になる。

1年生が練習に加わり2年生は1年生の指導という新

たな役割が増える。

10月下旬に開催される本学の学園祭「あすなろ祭」のステージで「グランドフィナーレ」のダンスを、製作した衣装を着けて発表する。この時期から大道具・小道具製作が本格的に動き始める。

#### ② 演奏チーム

10月から活動に合流する1年生について、担当楽器を割振り指導しつつ、全曲を仕上げていく。

### (6) 11月初旬～11月下旬

ここからは2チーム合同の練習が増えるため記述も合同とする。

キャストチームは各場面の演技、歌、ダンス、演奏チームは演奏に磨きをかける練習を続けながら、両チーム合同の音楽稽古を開始する。1場面ごとに、その場面に関わる配役が演奏チームが練習する音楽室に集合し、歌、ダンスの伴奏音楽、演技中のBGMも実際に演技をしながら合わせ、演技の寸法によって音楽の長さを調整する。

11月下旬の休日を利用し1日かけて通し稽古を行う。休日であれば学生、教員全員の参加と、丸1日表現スタジオが使用可能となる。演奏チームは使用楽器を全て表現スタジオに運び入れ、キャストチームも全員衣装着用で、大道具、小道具等製作途中のものも使用し通し稽古を行う。

### (7) 12月初旬～本番当日

12月に入ると放課後の稽古は合同で行う。12月第1金曜日に「試演会」を実施し、実技発表会に出演する全学生がお互いの前で試演を行い、改善点を洗い出す。

また、佐賀市文化会館の舞台スタッフとの打合せを学生主体で行う。

本番2日前の放課後、佐賀市文化会館中ホールに楽器や大道具を運び入れる。本番全日は授業は休講し、照明・音響も含めた舞台リハーサルに充てる。

本番当日も午前中リハーサルを行い、本番を迎える。800名の地域の観客を前に演じ、演奏する姿は堂々たるものである。

## 5. 来場者アンケートについて

実技発表会の来場者に対し、発表会を鑑賞した感想等についてのアンケートを、当日会場で配布するプログラムに差込み形で配布し、終演後回収に入口付近の回収箱にて回収を行っている。入場者の総数は把握できていないが、800席の会場が毎年ほぼ満席に近い状態になる。その中でアンケートに協力してくれた来場者は平成27年度（第43回）165名、平成28年度（第44回）が152

名、平成 29 年度（第 45 回）164 名であった。  
アンケートの質問項目について表 3 に示す。

表 3. 来場者アンケートの質問項目

1. 来場者の基本情報（居住地域・所属など）
2. 来場回数
3. 来場のきっかけ
4. 各演目に対する評価
5. ミュージカルについての評価項目
①構成
②上演時間
③衣装・メイクがキャラクターを表現できていたか
④大道具・小道具の効果
⑤動きと演奏の一致
⑥各場面の選曲
⑦意見・感想（自由記述）

平成 27 年度（第 43 回）～平成 29 年度（第 45 回）来場者アンケートの結果について項目別に以下に示す。

(1) 来場者の居住地域と来場のきっかけ

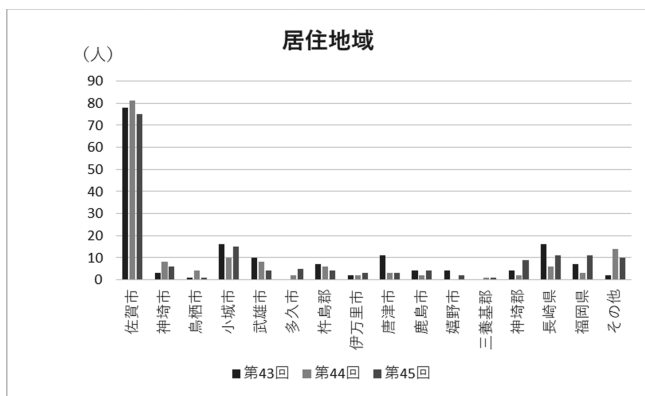


図 1. 実技発表会来場者の居住地域

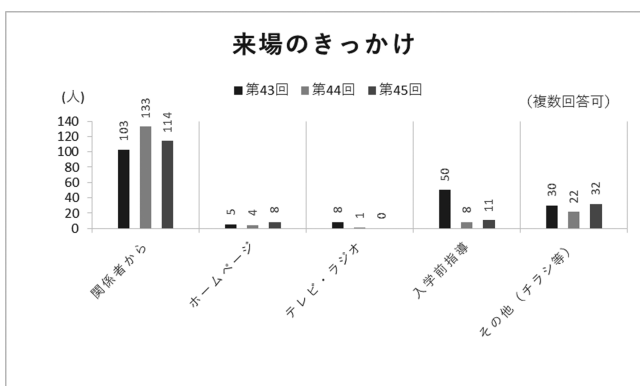


図 2. 来場のきっかけ

3 年間の累積で来場者の 48.6%が佐賀市在住で、その他は佐賀市近郊の市町居住者であるが中には、福岡県、長崎県、遠くは奈良県や東京都からの来場者もあった。図 2 の来場のきっかけのグラフで「出演者から」が多数

であることから判るように、出演する学生の家族が多数を占める。また卒業生の来場も多く、遠方に就職した卒業生も発表会に合わせて帰省し来場することも少なくない。

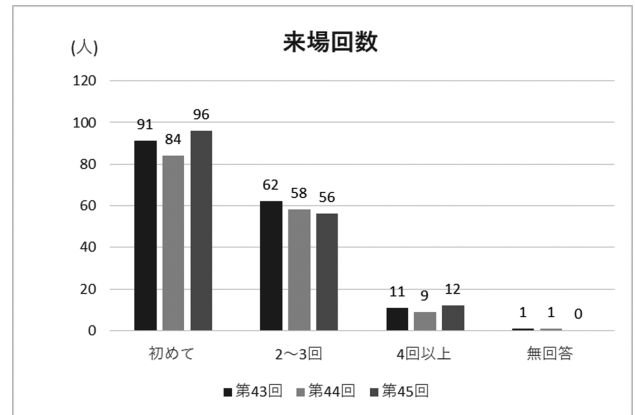


図 3. 来場回数

(2) 来場回数

前述したとおり、来場者の多くは出演者の関係者であることから、「1 回目」の来場者が最も多く、平成 27 年度が 91 名、平成 28 年 84 名、平成 29 年 96 名で全体で 56.3%であるが、「2～3 回」は、平成 27 年 62 名、平成 28 年 58 名、平成 29 年 56 名、全体で 36.6%。「4 回以上」は平成 27 年 11 名、平成 28 年 9 名、平成 29 年 12 名で全体では 6.7%である。年度による増減はほとんど見られないが、全体の 43.3%はリピーターであることが判る。

(3) ミュージカルの評価

アンケート中、ミュージカルに対する評価項目①構成、②上演時間、③衣装やメイクがキャラクターを表現できていたか、④大道具・小道具、⑤演奏と動きの一致、⑥場面ごとの選曲、は学生から挙げられたものであり、ミュージカルに関わる学生自身がどういった点についての評価を求めているのかを窺い知ることができる。

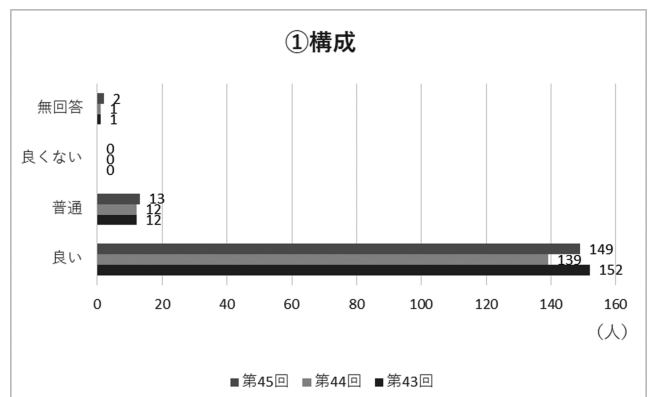


図 4. ミュージカルの構成

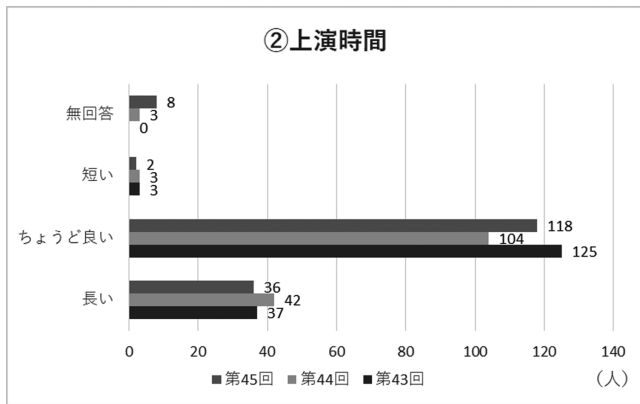


図5. 上演時間

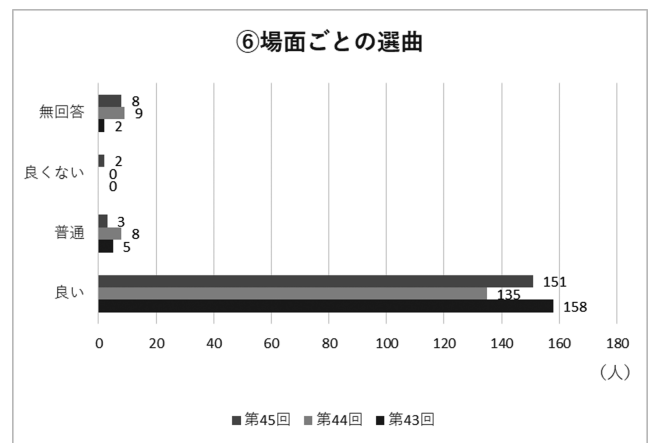


図9. 場面ごとの選曲

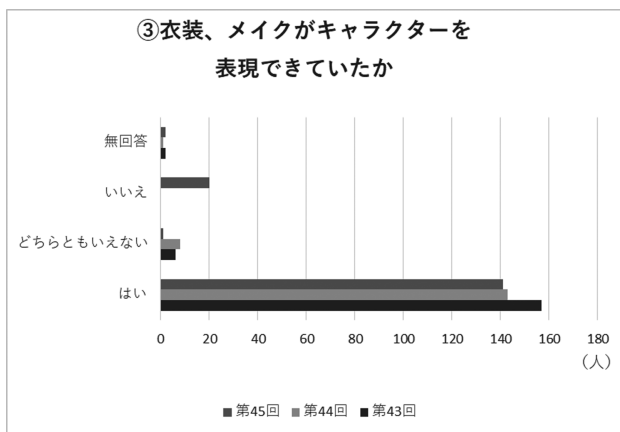


図6. 衣装・メイクに対する評価

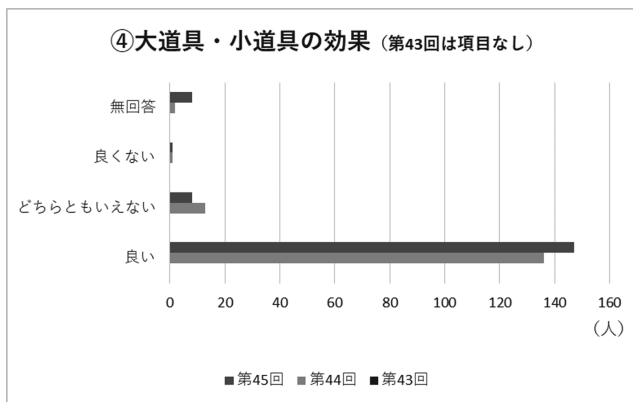


図7. 大道具・小道具の効果

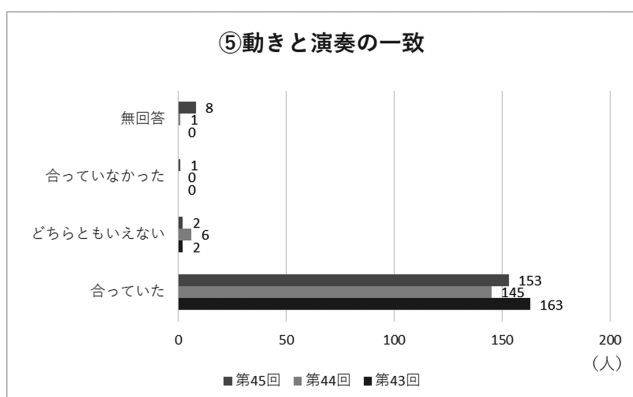


図8. 動きと演奏の一致

質問項目の肯定評価は①構成 91.5%、②上演時間 72.2%、③衣装やメイクがキャラクターを表現できていたか 91.7%、④大道具・小道具 90%、⑤演奏と動きの一致 95.8%、⑥場面ごとの選曲 92.3%、これら6項目中②上演時間以外の5項目については肯定評価が90パーセントを超え、高い評価となっている。

質問項目⑦来場者の「感想・意見」(自由記述)を以下に示す。

平成27年度(第43回)

- ・ 全員が堂々として、内容もとても面白かった。
- ・ ミュージカルのレベルが高く驚きました。
- ・ ストーリーの構成も分かりやすく、衣装も素敵で会場全体が釘付けだった印象を受けました。
- ・ 子どもから大人まで楽しめるものの表現はとても難しいと思います。笑顔と身体を大きく動かして、精一杯明るく表現された姿は素晴らしかったです。この経験を糧に保育士の道を進んで欲しい。
- ・ とても素晴らしくて鳥肌が立ちました。
- ・ 演奏と動きがとても良く合っていました。
- ・ 学生さんが一生懸命考えて作られたのでしょうか。現役の保育士をしています、現場ですごく役に立つ学びになったと思います。学生さんの財産になったと思います。

平成28年度(第44回)

- ・ すべてに対してよく練習していることが伝わり感動した。
- ・ みんな上手でとてもいきいきして素敵だった。
- ・ 年々素晴らしくなっていると思います。
- ・ 本格的で素晴らしかった。質の高いミュージカルでした。
- ・ 生演奏も含め素晴らしいチームワークで完成度が高かった。
- ・ 音楽の生演奏がとてもよかった。

- ・ 臨場感、緊張感があった。演奏者が舞台上で演じる学生をじっと見守りながら、演技にピタリと合わせ効果的な演奏をしていた。素晴らしかった。
- ・ もっとたくさん子どもたちに観てもらいたい。
- ・ 練習で毎日遅くなり家族も大変でしたが、本人が良く頑張りました。

平成 29 年度（第 45 回）

- ・ フィナーレの一体感がすごかった。
- ・ 動き、歌、踊り、演奏、どれも素晴らしかった。
- ・ 始めてきましたが、内容に入り込みました。
- ・ 学生さん全員が一生懸命で、大変感動しました。
- ・ 今日の経験を保育に活かして、子どもたちに伝えて欲しい。
- ・ 随所に工夫が見られて良かった。
- ・ 衣装の表現が素晴らしい。
- ・ 無料で鑑賞できて感激です。

## 6. 学生の感想（卒業研究抄録より抜粋）

### ① キャストチーム学生

- ・ 練習中は不安や悩みと葛藤しながらも、より良いステージを作り上げられるよう、お互いに指摘し、刺激しあいながら練習を行い、全員で気持ちを高めあった。
- ・ 演奏チームとは、一体感が出るよう何度も合同練習をし、曲のテンポや入り、雰囲気合うよう調整を行うことで、ミュージカル全体がまとまった。また練習を重ねる中で演技や台詞、歌やダンスにも自信がついた。
- ・ 本番では舞台が進行する中、観客の感動が伝わり、演技者の私たち一人一人が大きな感動と達成感を味わうことができた。改めて全員で一つのものを作り上げることの素晴らしさを知った。この経験を通して学んだ表現力や協調性などを保育の現場で役立て、さらに表現の学びを深めていきたい。

### ② 演奏チーム学生

- ・ ミュージカルのステージを華やかに演出するために必要不可欠な音楽について、この経験を通して深く学ぶことができたと思う。
- ・ 戦いの場面で使用したベルディ作曲「レクイエム」より「怒りの日」はテンポが速く練習では苦戦したが、本番では息を合わせ演奏することができた。このシーンはストーリー展開上、特に緊張感のあるシーンで、1 曲 4 分間の中に演技やダンスを効果的に配置して表現することに成功できたと思う。

## 7. 考 察

来場者アンケートの結果からはミュージカル観劇の満足度の高さが窺える。来場者の中に保護者や卒業生など関係者が多いことも高評価の要因であると考えられるが、自由記述には「素晴らしい」「感動した」「レベルが高い」など賞賛の言葉が多数見られ、現職保育士という方の「現場でとても役立つ学び・学生さんの財産」という記述も見られた。これは多くの時間を使って練習を重ね、作品として十分に見応えがあるという評価でもあろうが、全身全霊で生き活きと表現する学生の姿に共感するものでもあるだろう。

アンケート項目中最も高評価となったのは「動きと演奏の一致」の 95.8%であった。これは生演奏での上演という本取組みの中で、指導者として最も重要視したもので、自由記述の「生演奏も含め素晴らしいチームワークで完成度が高かった」や「演奏者が舞台上で演じる学生をじっと見守りながら、演技にピタリと合わせ効果的な演奏をしていた。素晴らしかった。」に見られるように、我々指導者から見ても、キャストチームと演奏チームの立場の違う 2 チームが 1 つの作品創作を通して、日を追うごとにお互いを尊重し合い、高め合う関係を築いていることを感じる。それが舞台上で一体感という形になり、観客に伝わったと考える。

卒業研究抄録の記述からは、劇中に流れる音楽が、登場人物の感情やシーンの気分、空気感などを表現し、見えない背景として観客の心に作用することや、作品全体の印象に大きく影響することについて、活動を通して実感していることが判り、本取組みの意図が実現できたと考える。

## 8. おわりに

ミュージカルを生演奏で上演するという取組みは、発表までの過程を複雑化させ、準備や練習により多くの時間と労力が必要となったが、学生たちは発表を成功させることを目標に、非常に能動的な姿を見せる。授業の空き時間や放課後を調整し、これもまた限られた練習場所について、多方面と連絡調整し教室を確保している。衣装や大道具・小道具製作、舞台スタッフとの打ち合わせなど、練習以外の準備においても役割分担により、計画的に進める姿からはコミュニケーション能力、問題解決能力の向上が見て取れる。

生演奏による上演は、以前の「ダンス劇」と比較しよりダイナミックなものになったことは確かであり、観客に高評価を得たことは、10 年間で培った成果と捉えてよいであろう。学生にとってスキルの向上はもとより、観客に感動を与えることができたという実感が達成感と



なり、大きな自信にもなったと感じる。また協働することの意味を知りえたことで、それを活かした保育現場での活躍が期待される。

ミュージカル創作と生演奏上演に取り組んで10年、実技発表会の観客を楽しませる演出効果としても教育的効果としても一定の成果を上げることができた。今後は、キャストチーム、演奏チームそれぞれの課題について明確化し、今後の「ミュージカル」に更なる成果を示したい。

### 引用・参考文献

- 1) 林洋子, 米倉慶子, 櫻井琴音, 丹羽ヤエ子, 野口美乃里, 坂井加奈「表現活動の実践力育成に向けての取り組み ―実技発表会の開催を通して―」(佐賀短期大学紀要 第38号)
- 2) 古谷祥子, 沢登美美子, 高野牧子「保育者養成校におけるオペレッタ創作活動の教育的効果 ―2011年度「総合表現演習」の実践から―」(山梨県立大学人間福祉学部紀要 5011.7 〈2012〉)
- 3) 虫明眞砂子「教員養成におけるミュージカルの一考察」(岡山大学教育実践センター紀要第8巻 〈2008〉)
- 4) 「幼児音楽教育ハンドブック」全国大学音楽教育学会編